

研究タイトル：

持続可能な社会の構築に関する研究



氏名：	小倉亜紗美 / Asami OGURA	E-mail：	a-ogura@kure-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(学術)
所属学会・協会：	日本環境学会		
キーワード：	環境平和学、フェアトレード、環境保全、多文化共生		
技術相談 提供可能技術：	市民講座：「私たちの暮らしと水」、「私たちの暮らしと地球温暖化」、「私たちのごみと世界のつながり」、「環境と平和のつながりを考える」、「フェアトレード(貿易ゲーム含む)」、「生物多様性と私たちの暮らし(山と川と海のつながり)」、「風呂敷で楽しくエコ生活(実践含む)」など		

研究内容：

環境平和学(持続可能な社会の構築を通じ平和な社会の実現を目指す)、特に環境保全・農地の持続可能性に関する研究(SDGs、フェアトレード含む)

2030年までの国際社会共通の目標 SDGs(持続可能な開発目標)の一つである「12: つくる責任, つかう責任」の達成には、自然環境や農家が持続可能な生産方法で、生産者である開発途上国の人権に配慮して作られた製品を選択する消費者が増えることが重要である。そこで、この両面についての研究を進めているほか、SDGsの「15: 陸の豊さを守ろう」や「11: 住み続けられるまちづくりを」「17: パートナースhipで目標を達成しよう」につながるような研究も行っている。



12 つくる責任
つかう責任



農地・農家の持続可能性についての研究

- スリランカにおける小規模コーヒー農家の持続可能性—流通面からの検討
- 落ち葉の処理の観点からの堆肥化の研究
- 草刈り方法の違いによる生態系への影響

消費者の選択についての研究

- フェアトレードの日本における出版物発行数と新聞記事数の変遷についての研究

6 安全な水とトイレ
を世界中に



15 陸の豊かさ
を守ろう



陸域環境(河川含む)の保全についての研究

- 河川の水質や生物相と流域住民の認識についての研究
- 植物の保全についての研究
- カワニナの生息環境についての研究
- トラップを用いた環境学習プログラムの構築
- オーバーツーリズムが及ぼす環境負荷の評価—大久野島の持続可能な利用

11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



国際理解やパートナーシップ、まちづくりなどについての研究

- 災害時の外国人住民への情報提供についての研究
- 保育園における保育士と外国人保護者とのコミュニケーション補助ツールの作成
- 留学プログラムを通じた平和教育についての研究

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

ドローン	
カワニナトラップ	
柴漬けトラップ	
保育士と外国籍幼児の保護者のコミュニケーション補助ツール	